

平成22年6月9日

平成21年度決算概況について

横浜信用金庫（横浜市中区尾上町2-16-1 理事長 斎藤 寿臣）では、平成22年6月24日（木）の通常総代会において平成21年度の決算について報告します。

つきましては、「平成21年度決算資料」を添えてお知らせします。

1. 本決算のポイント

- (1) 59期連続の黒字決算
- (2) 自己資本比率の上昇

2. 業容について

預金の期中平均残高（譲渡性預金を含む）は、前年度比3.28%増加し1兆4,327億円、期末残高は同1.63%増加し1兆4,392億円となりました。

貸出金の期中平均残高は、前年度比1.23%増加し8,680億円、景気低迷の影響を受け、期末残高は同3.66%減少し8,589億円となりました。

3. 損益について

経常収益は、前年度比18億73百万円減少し310億66百万円となりました。貸出金利回の低下による貸出金利息の減少が主な要因です。

経常費用は、前年度比17億55百万円減少し280億55百万円となりました。貸倒引当金繰入額等の不良債権処理費用が増加したものの、預金利息の減少や金融市場の回復による有価証券の償却の減少が主な要因です。

この結果、経常利益は、前年度比1億17百万円減少し30億11百万円となりました。

また、本業の収益力を表す業務純益（一般貸倒引当金繰入後）は、前年度比11億57百万円増加し、61億56百万円となりました。

当期純利益は、前年度比40百万円減少し18億20百万円となりました。

これにより、昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、59期連続の黒字決算となりました。

〈不良債権処理費用〉

	20年度	21年度	増減額
貸出金償却	7百万円	185百万円	178百万円
個別貸倒引当金繰入額	847	1,763	915
債権売却費用	63	461	397
合計	918	2,410	1,491

(参考)

一般貸倒引当金繰入額	339	330	△9
------------	-----	-----	----

4. 諸比率について

預金貸出金利鞘は、前年度比0.10ポイント低下し0.78%となりました。貸出金利回は前年度比0.22ポイント低下し2.36%、預金利回は同0.09ポイント低下し0.21%

となりました。経費を含めた預金原価率は前年度比0.12ポイント低下し1.58%となり、預金貸出金利鞘は縮小しました。

総資金利鞘は、前年度比0.03ポイント低下し0.22%となりました。資金運用利回は前年度比0.16ポイント低下し1.82%、資金調達原価率は同0.13ポイント低下し1.59%となり、総資金利鞘は縮小しました。

自己資本比率は、前年度比0.91ポイント上昇し11.69%となりました。国内基準(4%)はもとより国際基準(8%)も上回る高い水準を維持しています。

5. 不良債権について

不良債権残高は、取引先の業況悪化に伴い、前年度末に比べ増加しました。不良債権比率は、信用金庫法基準が前年度4.65%から6.12%に、金融再生法基準が前年度4.64%から6.12%に上昇しました。

なお、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は、いずれも90%を超えています。

6. 平成22年度計画について

平成22年度の利益計画は次のとおりです。

(1) 業務純益	56億19百万円	(前年度比	△5億37百万円)
(2) 経常利益	21億61百万円	("	△8億50百万円)
(3) 当期純利益	10億51百万円	("	△7億69百万円)

以上

たしかな明日のお手伝い



神奈川・東京に60店舗